

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニット内の常にスタッフが目にする場所にあり、確認しあっている。 ・理念のもと、ケアをこころがけている。 	<p>法人全体の基本理念は職員が常に携帯しているネームプレート裏に印刷され、何時でも振り返りができ、ケアに活かしている。月1回開かれる全員参加のユニット会議でも唱和している。3月にはユニット毎に次年度4月からの1年の3項目を目安にした目標を立て支援に当たっている。両ユニット共に外出・散歩での機能低下防止、趣味やレクリエーションの実施、楽しく生き生きとした生活の維持、報告・連絡・相談の徹底などを掲げ実践に取り組んでいる。家族へは利用契約時とお便りで理念・目標を知らせている。</p>	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響があり、今年度はボランティアの受け入れもできなかったため、地域との交流ができなかった。 	<p>法人として自治会に加入し会費を納めているため、法人には地区の回覧板が来ており地区の行事などの情報を得ている。今年度は地区の催しやボランティアの来訪もコロナの影響で中止となっている。敷地内の法人の保育園児とは職員の家族ということもあり影響なく交流ができ、ホームの夏祭りやハロウインの時に来訪し利用者と交流している。また、地域の方の参加もある病院祭も中止となったため、地元のケーブルビジョンで夏祭りでの「ひよこ」の園児との交流を録画していただきテレビで流していただいたという。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方との交流はコロナウイルスの影響で難しい状況であった。今後検討していく。 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議についてアルテミスでの会議はできなかったが、文書で報告を行い、ご意見を伺ってサービス向上に活かすことができた。 	<p>家族代表、自治会長、市高齢者介護課職員、地域包括支援センター職員、ホーム職員の参加の下、2ヶ月に1回偶数月で昨年2月まで定期的に開かれていた。新型コロナウイルスの影響を受けその後は中止とし書面にて防災や身体拘束などの現状報告し意見を頂いている。通常の会議の際は、家族の参加については事前にアンケートを取り無理のない範囲で参加をお願いしている。</p>	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は活動もすくなかったが、市役所に行く時に高齢者介護課の方と話す機会がありました。 	<p>市高齢者介護課、地域包括支援センターとはホームに空きができた時などに相談をしている。通常であれば介護相談員も3ヶ月に1回2名で来訪していたが、昨年4月から中止となっている。介護認定更新時には代行申請し、認定調査員の訪問には情報を提供している。</p>	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・安全の為、玄関の施錠は行っている。それ以外はしていない。 	<p>L字バーのベットの柵を使用することがあり、消費者庁による「ベットの柵事故の注意情報」などを参考に職員間で周知事故防止に努めている。年2回身体拘束について内部研修も行い、出来る限り身体拘束のないケアに取り組んでいる。法人全体として身体拘束にかかわる研修を管理者層を主に実施し、他の職員にはオンラインの研修を行っている。転倒防止のためセンサーマット利用者がいるが家族とも協議し理解を得ている。</p>	

認知症対応型共同生活介護施設アルテミス・西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・利用者さんの人権を尊重して、虐待行為が生じないように注意を払い職員同士で話題にして防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・研修に参加して学んでいる。 ・この制度を利用される利用者もあり、活用できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	できている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者、家族等の意見・要望は常に聞き入れ、希望に沿うよう心掛けている。 ・外部者へは管理者が行っている。	全体的に利用者が重度化しており出来たことが出来なくなってきた。編み物が好きな方は大きなものからエコたわし等、小物づくりに取り組んでいる。希望や要望を伝えられる方が少なくなっているが日々声掛けし希望を聞き、それに沿って生活できるよう支援している。家族との面会についてはビニール越しや窓越し面会を試みたが県外の家族などへの対応も新型コロナウイルスの状況により検討していく予定である。当面の間メールで連絡を取り、都合を聞き、家族とのオンラインによる面会で子供さんやお孫さんと顔を見ながら話し喜ばれている。本人と職員からコメントも入れ一人ひとりの様子を写真に収め「アルテミスたより」として2ヶ月に1回家族あてに送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・ユニット会議、毎日の申し送りで意見提案、相談を聞き話し合い、全員の同意を確認をし、反映させている。	月1回全員参加でユニット会議を開いている。ユニット毎に年度目標を立てどこまで出来るか話し合っている。管理者は職員から随時意見を聞くように努めている。法人により年1回ストレスチェックが行われ、状況に応じて産業医に繋げることもでき、職員のメンタルヘルスにも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・やりがい、向上心を高めるため、資格取得、研修に関し、支援している。 ・もっとやりがいに通じることを増やしていきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・今年度、外部研修は少なかったが、院内研修、また、動画での研修で学ぶことができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・今年度、参加研修が少なかったため、交流、意見交換はあまりできなかった。 ・院内新人研修を受け入れ、第三者の意見を聞きサービスに反映した。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・利用者様によってはご自分の意思を表現できにくい方もいらっしゃるため、完全には把握できない部分もあるが、できるだけご本人のお気持ちに添えるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族のご要望、ご意見をお聞きしてできる限り、ご要望に添えるよう努め、ご家族に安心していただけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・デイケアなごみの利用も含め、ご本人・ご家族の希望に添ったサービスができるよう務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・要介護度が重い利用者さんは、一方の立場になりがちであるが、利用者さん一人ひとりできることをできる範囲でしていただきながらともに過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・コロナウイルスの影響でご家族も思うように面会していただけない状態が続いたが、不足品をご持参いただいたり、他科診受診をしていただくよう支えていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご友人からの届け物の受け渡し、窓越しの面会、お手紙のやり取り等支援を行っている。面会についてはコロナウイルスの影響もあり、十分な面会は行えなかった。	友人からの届け物、手紙のやり取り、窓越し面会などが新型コロナウイルスの影響により制限されている中で、出来る限り馴染みの関係を継続出来るか検討を続けている。隣接のデイケア利用からホームに入居された方もいるため、今も三分の一弱の方が週2回、医療対応で8時半から15時までの6時間利用し、そのデイケアを利用されている在宅からの通いの利用者とは交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・集団レクリエーションや軽作業、季節のイベント、誕生会等を通じて利用者さん同士がお互いに楽しく関わり合いを持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ご本人の意向を尊重し、ご希望をできるだけ汲み取れるよう努力している。意思表示が困難な方にはご家族からの聞き取りを参考にして把握に努めている。	自らの意思表示が出来ない方が多くなっているが、日頃の様子から汲み取っている。ユニット会議や申し送りノートで情報の共有をし、編み物が得意な方はエコたわしを編んだり、洋裁をされていた方は雑巾を縫い、他の利用者は全員でタオルを切ってウエスづくりをしたり、大正琴をやっていた方がまた弾けるようになったりと、日々希望に沿って生活できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご本人にお話を伺ったり、ご家族からお聞きして、これまでの生活を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・職員間で申し送り等の情報を共有し、その日の利用者さんの様子を把握してその方にあつた対応ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・月1回行うユニット会議において利用者さんの日頃の様子について職員で話し合いご本人、ご家族からのご意見を反映させて、介護計画を作成している。	職員は1~2名の利用者を担当している。月1回のユニット会議でモニタリングを行っており、介護計画は基本的には長期1年、短期は6ヶ月で見直している。状態の変化が見られた時には随時見直しも行っている。見直しの際には利用者・家族からも希望を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別のケース記録に日々の様子、ケア等について記録して職員間で情報を共有し、一人ひとりの利用者さんに合ったケアの方法を考えて介護計画に活かせるよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご本人、ご家族の状況を把握し、できる限り個別に生じるニーズにこたえられる様努力している。		

認知症対応型共同生活介護施設アルテミス・西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・現状では一人ひとりのニーズに合わせて地域資源を活かしていないため、今後の課題として取り組んでいきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・受診について、ご家族が付き添うことができない場合、職員が代わりに利用者さんに付き添い受診していただいている。	隣接の病院が協力医になっていることと利用前からの主治医が継続出来ることを契約時に説明し希望を聞いている。若干名の方が在宅時の主治医を継続しており受診は家族対応となっている。受診時には看護師でもある管理者から状況報告をしている。隣接の病院を主治医としている方は利用者の状態により、週1回の往診、月1回・2ヶ月に1回・3ヶ月に1回の受診など、一人ひとりに合わせ支援している。また、隣接の病院とは電子カルテにより情報の共有が出来ている。歯科は必要に応じて予約し、付き添いは家族にお願いしている。法人内の訪問看護は新型コロナウイルスの影響により中止となっている。ホームには管理者と合わせて2人の看護師がおり、医師への連携もスムーズに行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・利用者さんの様子を職員間で情報を共有して看護職に相談し適切な受診看護を受けられるよう支援している。訪問看護はコロナの影響で中止されている。(1月再開予定)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・利用者さんが入院した場合定期的に職員が面会を行い入院先の看護師と情報を交換、また相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・ご本人、ご家族、主治医を交えた話し合いが終了している利用者さんと、まだ行っていない利用者さんがいるため、今後行っていく。	利用契約時に「重度化・終末期ケア対応指針」を基に説明し同意を頂いている。その状態に到った時は、本人・家族・主治医と話し合って希望に沿えるよう支援している。未だその時期になく、話し合いがこれからという利用者もいる。家族の気持ちの変化もあるため状態の変化に応じて希望を再度確認している。昨年度、ホームでの看取りが行われた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・千曲荘病院での研修会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・千曲荘病院と合同で行う避難訓練に参加して、職員全員が災害対策を身に付けている。	隣接の病院と合同で年2回防災訓練を行っている。地震・火災など、その都度想定し行っている。連絡網についても一斉でメール送信できる体制が整っている。訓練では新人職員もいるため消火器の訓練も行われた。井戸水もあり、非常食も試食しながら味や形態など利用者に合わせて確認し入れ替えもしている。1年かけて準備品の検討をし備蓄も十分用意され、カッパやヘルメットなども用意されている。災害時、法人として地元住民の受け入れも想定し準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者さんの誇りやプライバシーを損ねないよう対応しているつもりであるが、完全とはいえない。	法令遵守・プライバシー保護の研修は本年度、リモートで行われた。男性職員もお夜勤もあるが、利用者との関係作りができており利用者へ理解を得てトイレ介助や入浴介助も行っている。利用者への声掛けは、希望をお聞きし苗字や名前「さん」でお呼びしている。重度化してきているが大きな声ではなく近くに寄り添いさりげなく声掛けしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者さんの希望を聞いたり、ご自分で決められる様働きかけを行っているが、意思表示できない利用者さんに対する働きかけが課題。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ご家族の協力を得て、化粧品を用意していただいたり、美容室に連れて行っていただく、病院内の美容室に付き添う等行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・朝の整容の際、くしで髪をとかしたり、ご希望で美容室にカット・パーマ等していただけるよう支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事の準備はほぼ職員が行っているが、時々食後の食器拭きを手伝っていただいたり、行事食を作る手伝いをしていただいている。	柔らかめの調理ではあるが自力で摂取出来る方が3分の2強、一部介助の方が若干名、全介助の方が数名となっている。一口サイズの刻みやミキサー食など一人ひとりに合わせて対応している。献立は法人の栄養士が作成し材料も届けられている。調理は調理師免許のある職員が2ユニット合わせて行っている。月1回のお好み献立や行事食も楽しみにしている。恵方巻も利用者が作っていたが作る事が難しくなり、ちらし寿司で楽しまれている。食事や水分摂取量は毎日記録し、補助食品で補うこともある。下ごしらえ・茶碗ふき・テーブル拭きなど、利用者が出出来る範囲でそれぞれの出番づくりがされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・病院の栄養士に相談して、栄養・水分量が確認できるよう一人ひとりの利用者さんに合った形で食べていただけるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・口腔ケアは、その利用者さんに応じた方法で介助が必要な方には介助をしながら行っている。		

認知症対応型共同生活介護施設アルテミス・西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・一人ひとりの力に合った方法で排泄をしていただけるようパットの種類を考え支援を行っている。	布パンツで自立している方が数名で、後の方はリハビリパンツやパットを利用している。見守りや一部介助、全介助と一人ひとりに合わせ定時誘導し出来る限りトイレで排泄することを大切に支援している。排泄チェック表により把握しており、便秘の場合は下剤、乳製品、水分摂取、腹部のマッサージなどで対応している。ポータブルトイレも数名の方が使用しており、日中も含め常時使用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘予防のため、水分を充分摂取していただけるよう工夫したり、主治医、看護師と相談して下剤を調整して排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴に気分が乗らない時や拒否される場合、日にちを変更して行っているが、なかなか入浴して下さらない利用者もいる。	基本的に週2回の入浴としている。一部介助の方が数名で、他の方は全介助という状態である。職員二人での介助も状態に応じ行っている。入浴が困難で清拭の方もいる。入浴を拒む時には時間を変えたりしている。殆どの方が乾燥肌で医師から保湿ローションを出していただき対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・誰でも好きな時に体を横にして休息できるよう、リビングのソファを活用している。誰でも使用できる掛物を用意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の知識については、医師、看護師、薬剤師からの指導を受ける。職員全員が全部の薬について理解するには至っていないが、服薬の支援、症状の変化の確認には努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・一人ひとりの力を活かした役割、楽しみごと、気分転換については一部支援しているが不十分なため、今後の課題である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	・コロナウイルスの影響で、外出も例年に比べ制限され、回数は少なく、人が集まる場所には出かけられなかった。	隣接の病院、隣接の施設、グラウンド、テニスコート、保育園や駐車場などが一ヶ所に集まっており、広い敷地内を散歩することもある。月々外出計画を立てているが新型コロナウイルスの影響で地区の行事も殆ど中止となっている。例年、上田城跡公園の菊花展に出席している地区内の方が中止となったため自宅に呼んでくださり見学をした。敷地のグラウンドには桜並木があり、居ながらにして楽しむことが出来る。道の駅にも曜日や時間で空いている時に出掛けるなど、外出が制限されている中で、利用者のストレスにも配慮し支援している。ホームの前を法人の保育園に通う子どもが散歩する姿が調査時にも覗えほのほとした雰囲気が感じられた。	

認知症対応型共同生活介護施設アルテミス・西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金に関しては鍵をかけられる保管場所が各居室にないこともあり、施設でお預かりすることがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・利用者さんの希望により電話を介助してかけていただいたり、携帯電話の使用を介助している。手紙についてもご希望があれば出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングに職員、利用者さんの季節を取り入れた作品を飾ったり、廊下、浴室、トイレには必要な物以外置かず利用者さんが動きやすいよう工夫している。	玄関と事務室及び交流スペースを挟んで各ユニットがある。ユニット同士ウッドデッキでも繋がっており自由に行き来出来る。各ユニットには中庭がありホーム内も明るくなっている。リビングも広く食事用テーブル以外にソファが用意され自由に過ごせるようになっている。床下エアコンが設置されており全体に暖かくなっている。トイレは各ユニットに車いす用、一般用、男性用も設置されている。浴室も広く浴室暖房、床下エアコンでヒートショックに対応している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングのソファ、机、椅子の配置を工夫して誰もが落ち着いて安心して過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご家族、ご本人と相談の上、ご本人の好みの物、普段使用していた物、ご家族の写真などを持参していただき、安心して過ごしていただけるよう工夫している。	床下エアコンで全体に暖かくなっている。居室の窓も大きく、居住スペースとの中間に障子の仕切りがあり和風の雰囲気が醸し出されている。居室にはペット・筆筒・クローゼット・机も設置されている。持ち込みは自由になっており、お気に入りの植木や連れ添った伴侶の写真、家族の写真などが飾られ居心地よく過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・できるだけ一人ひとりができることはご自分でしていただけるよう支援しているが、安全面を考え、職員が介助したり、代わりに行う事もある。		